

江戸時代の往来物を読む 解答

史料「木曾路往来」 〔浅見家文書No.2358〕

【一丁目】

弘化乙巳新刻

きそち

木曾路

わうらい

往来

錦森堂梓

きそちわうらい
木曾路往来

㊦

みやび

のほ

しをり

都路に登る枝折は

みちかへ

はる

きそち

道替て春ハ木曾路の

やゑかすみひきわた

八重霞引渡したる

いたばし

ふみこのむき

か

板橋や文好木の香を

【二丁目】

はつむらさき わらびじゆく

とめて初紫の蕨宿

けふついで

て

今日摘採ん手すさみに

うらわ

たづ

なきつれ

浦和も田鶴の鳴連て

まつ なみき おほみや

こへ

松の並木に大宮や聲

のどか

あげを

そこ

も長閑に上尾より底

はか をけがへ た
埒となく桶川や誰が

あまぐも

そら

やどりせん雨雲の空に

うつ

ゆふひかけはれま

寫(写)れる夕日影晴間ハ

かう

す

たか

どぶか鴻の巢の高きに

そたつひなどり

つき

わかけ

育雛鳥も月の輪懸

【三丁目】

て熊谷と聞も古跡や
直実かやし往の物
語り其意味深谷本
庄と嘘にハ言し岡部
村六弥太が出所とは

古きを捨て新町や
駅路の鈴の振分て
馬に置たる鞍ヶ野も
実至高崎や遠近に
横雲告る烏川波

【四丁目】

うち付の板鼻に鷹の
巢山も弥高く岸
根を濯ぐ木曾川も
安中くに妙義道
便りを爰に松井田ハ

是横川の御関所
登り下りの坂本ハ脚の
運びも軽井澤鴟の
草蓬沓掛に馬追
分や小田井の宿旅ハ